

こみゆにけーしょん Communication 特化型



子LAB Chapter 2



なぜコミュニケーション支援か

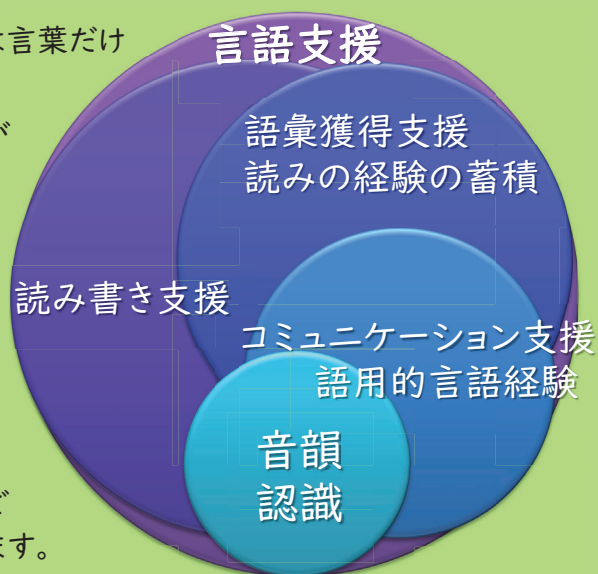
～ 言語支援ではなく、コミュニケーション支援。その必要性と違い

『言語支援』に足りない要素、それは『**意思表示**』です。意思表示は言葉だけでしょうか。意思表示の経験や仕方の方が重要ではないでしょうか？

意思表示が『んっんっ!!』っと強く言う、相手の手を引く、時には感情が強く出て、手を引いたり、つねったり...コミュニケーション支援に言葉やジェスチャー、それに対応してくれる周囲の家族や支援者が居るとずいぶん、状況が変わってくる場合があります。

言葉、つまり話すことは重要な支援要素です。しかし環境適応し、(不適応行動を少なくし)、意思表示をしていくためにはコミュニケーションの力はそれぞれの社会で必ず求められます。

『指差し』ひとつで『取って(要求・依頼)』、『見て(共有)』と意味が違います。これが難しさ(言語的には語用的側面といいます)です。これを支援し、意思表示や遊びに豊かさを求め、子ども同士の遊びなどを上記の視点で支援するのが『**JASPER**』アプローチだと思っています。



Chapter 2の特徴

コミュニケーション支援を成功させるために必要な環境を整えています。

① 個別性の高さ



JASPER (1vs1) や **JASPIar** (2 vs 2) の準個室の環境設定

② コンセプトに則った『おもちゃ』や『環境設定』



目的とする行動やジェスチャー、遊びの段階を誘導する設定や関わり

③ 子どもの行動の味方の視点 (SPACEによるアセスメント)



遊びの中の行動を『要求・共有・遊び』の3つの段階に分けて観察

④ 遊びに方略を持たせた、支援者からのアプローチ



模倣・モデリング・ルーティン・拡大・非言語・協働注意など

共同注意 Joint Attention, 象徴遊び Symbolic Play, 関わり合い Engagement and 感情調整 Regulation

JASPERはUCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) の自閉症研究・支援の第一人者 **Connie Kasari** 教授が開発。コミュニケーション支援の効果が認められた数少ない支援です。コロナの影響で基礎研修開催が遅れており、研修・論文を基に実施しています。